

令和6年(2024年)11月27日

保護者の皆様へ

吹田市立古江台小学校  
校長 川中 倫世

## 令和6年度 全国学力・学習状況調査の分析について

本年度、6年生を対象として「令和6年度全国学力・学習状況調査」を実施し、9月上旬に個別の結果をお返ししました。また吹田市でも、今回実施した調査結果の概要を吹田市のホームページを通じて公表しております。

この調査は、小学校の最終学年のみを対象とした調査であり、教科も国語、算数に限られております。また、測定されたものは学力の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。そのことを踏まえつつ、調査によって得られた課題を明らかにし、その改善に全力を注ぐことが、調査本来のねらいであると考えております。

対象となった6年生には、よりきめ細やかな指導ができるよう取り組みを進めるとともに、学校全体として課題に応じた学力向上につながる具体的な指導法の工夫改善も図ってまいります。各ご家庭におかれましても、以下の分析結果をもとに、今後の家庭学習の指針として参考にさせていただきますようお願いいたします。

### 1. 教科に関する調査の分析

#### ●国語《概要》

全体の正答率は、全国値を上回っていた。

#### ●国語《各領域における成果と課題》

**言語の特徴や使い方に関する事項**・・・全国値を上回る

- ・「話し言葉と書き言葉との違いに気付く」ことは、できている。
- ・「送り仮名に注意して、漢字を文の中で正しく使う」ことは、できていたが、「熟語を正しく書く」ことは、課題がある。
- ・「文の中における主語と熟語との関係を捉える」ことは、課題がある。

**情報の扱い方に関する事項**・・・全国値をやや上回る

- ・「情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使う」ことは、できている。

**我が国の言語文化に関する事項**・・・全国値を上回る

- ・「日常的に読書に親しみ、読書が、自分の考えを広げることに役立つことに気付く」ことは、できている。

### 話すこと・聞くこと・・・全国値をやや上回る

- ・「目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、伝え合う内容を検討する」ことは、課題がある。
- ・「資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫する」ことは、課題がある。
- ・「目的や意図に応じて、集めた材料を分類したり関係づけたりして、伝え合う内容を検討する」ことは、課題がある。

### 書くこと・・・全国値を上回る

- ・「目的や意図に応じて、集めた材料を分類したり関係づけたりして、伝えたいことを明確にする」ことは、概ねできている。
- ・「目的や意図に応じて、事実と感想、意見とを区別して書くなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する」ことは、課題がある。

### 読むこと・・・全国値を上回る

- ・「登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉え」たり、「人物像や物語の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりする」ことは、概ねできている。
- ・「人物像を具体的に想像する」ことは、やや課題がある。

## ●国語科における成果と今後の改善点について

全体的には、ほとんどの設問において全国値を上回り、良い結果でした。

「話すこと・聞くこと」においては、低学年では伝えたい事柄や相手に応じて、声の大きさや速さなどを工夫する活動、中学年では、話の中心や話す場面を意識して、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などを工夫する活動、高学年では、資料を活用したり目的や意図に応じて自分の考えが伝わるよう表現を工夫したりする活動を増やしていきます。

「書くこと」においては、低学年では時間や順序を表す語句を用いたり内容のまとまりを確かめる、中学年では、「なぜならば～」「～のためである」「例えば～」などの表現を用いて理由や事例を記述する、高学年では、目的を明確にして引用したり、図解や表・グラフを示してわかりやすく事実を伝えたりする学習が必要だと考えます。

「読むこと」においては、低学年では、叙述を基に登場人物について具体的にイメージしたり、行動の理由を想像したりする、中学年では、複数の場面の叙述を結び付けながら、気持ちの変化を見いだして想像する、高学年では、感動やユーモアなどを生み出す優れた叙述や、メッセージや題材などを強く意識させる表現に着目しながら読む活動をしていきたいと考えます。

## ●算数《概要》

全体の正答率は、全国値を上回っていた。

## ●算数《各領域における成果と課題、指導改善のポイント》

### 数と計算・・・全国値を上回る

- ・「数量の関係を、□を用いた式に表す」ことや、「除数が小数である場合の除法の計算をする」ことは、できている。
- ・「計算に関して成り立つ性質を活用して、計算の仕方を考察し、求め方と答えを式や言葉を用いて記述する」ことは、課題がある。

### 図形・・・全国値を上回る

- ・「直方体の見取り図について理解し、かく」ことは、できている。
- ・「球の直径の長さと同立方体の一辺の長さの関係を捉え、立方体の体積の求め方を式に表す」ことは、課題がある。

### 変化と関係・・・全国値を上回る

- ・「速さが一定であることを基に、道のりと時間の関係について考察する」ことは、概ねできている。
- ・「速さの意味について理解する」ことや、「道のりが等しい場合の速さについて、時間を基に判断し、その理由を言葉や数を用いて記述する」ことは、課題がある。

### データの活用・・・全国値を上回る

- ・「円グラフの特徴を理解し、割合を読み取る」ことや、「簡単な二次元表を読み取り、必要なデータを取り出して、落ちや重なりがないように分類整理する」ことは、できている。
- ・「折れ線グラフから必要な数値を読み取り、条件にあてはまることを言葉と数を用いて記述する」ことや、「示された情報を基に、表から必要な数値を読み取って式に表し、基準値を超えるかどうかを判断する」ことは、課題がある。

### ●算数科における成果と今後の改善点について

全体的には、全ての設問において全国値を上回り、良い結果でした。

「数と計算」においては、他教科や日常生活の数量と関連付けていきます。

「図形」においては、中学年では定規やコンパス、方眼を用いた作図に加えて、紙を折るなどのいろいろな方法で図形を作ったり、ボールを使った操作や観察をする活動、高学年では測定や公式を用いて体積を求めたり、積についての量感を養う活動を重視していきます。

「変化と関係」においては、速さなど単位量当たりの大きさの意味や表し方について理解することが重要だと考えます。二つの量の割合として捉えられる数量の関係に着目して比べたり表現したりする方法を考察し、それらを日常生活に生かしていきます。

「データの活用」においては、自分が解決したい問題に応じてデータを表に分類整理してグラフにまとめたり、表やグラフから考察したり見いだしたりしたことを他の人にもわかるように表現したり伝え合ったりする活動に取り組んでいきます。

## 2. 生活習慣や学習環境等に関する調査の傾向

### 【学習環境・生活環境について】

- ・「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う」「人が困っているときには、進んで助けている」「人の役に立つ人間になりたい」については、肯定的に回答している。
- ・「友達関係に満足している」については、肯定的に回答している。
- ・「自分には、よいところがある」「将来の夢や目標を持っている」については肯定的な回答が多かった。
- ・「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できる」については、肯定的な回答が多いが、否定的な回答もあった。
- ・「自分と違う意見について考えるのは楽しい」「分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできている」については、肯定的な回答が多いが、否定的な回答もあった。

### 【教科・学習について】

- ・「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりする」については、肯定的な回答が多く、否定的な回答が少なかった。
- ・「授業で学んだことを、次の学習や実生活に結びつけて考えたり、生かしたりする」については、肯定的な回答も多いが、否定的な回答もあった。
- ・「学級活動における学級での話し合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいる」については、肯定的な回答が多かったものの、否定的な回答もあった。
- ・「国語（算数）の授業の内容はよく分かりますか」については肯定的な回答が多いが、「国語（算数）は好きですか」については、否定的な回答も多い。

## 3. 今後の取り組み

今回の学力・学習状況調査において、本校6年生児童は、全体として全国値を上回る結果でした。日頃の子どもたちの学習に対する姿勢、努力が反映されたものとなりました。これも保護者の皆様が、各家庭での学習環境作りに留意してくださっていることが大きく関わっていると考えております。

本校では今年度より算数科を中心として「考えを互いに伝え合うことで多様な見方考え方ができる子どもの育成」という研究テーマに取り組んでいます。教科に関する結果を踏まえ、児童一人ひとりの主体的に「考えよう」という学びに対する思いを大切に、それが実現できるよう指導の工夫、授業改善、伝え合える学級づくりに取り組んでいます。また、ICT機器を効果的に活用し、各教科での表現活動を重視した指導など一層進めてまいります。学んだ知識・技能が、教科学習はもちろん実生活とも関連するように授業の工夫に取り組みたいと考えます。

生活習慣や学習環境等の結果を踏まえ、日々の生活や学習、行事等を通して、自他の良さに気づき互いに認め合うこと、困ったことや不安なことを受け止め、相手の気持ちを思いやりながら協力できる人間関係を作ることについて、今後も指導を進めてまいります。また、誰もが安全・安心と感じられる学校生活を送ることができるよう、いじめ予防授業、デジタルシティズンシップ教育、人権教育など、教育活動全体において、子ども同士の関わりは元より、さらに広く人との関わりを考える活動を進めてまいります。

今回の学力・学習状況調査からみた課題を踏まえ、子どもたちがより充実した学校生活を送り、新しい時代を生きるために必要な教育を目指し、学校教育活動の充実を図ってまいります。そのためには学校、家庭、地域の連携が必要不可欠です。今後とも学校の取り組みにご理解ご協力をお願いいたします。